令和８年10月１日発行（毎月１日発行）

2026.10
（公社）富山県薬剤師会
広報誌

とみやく 富薬

10号
第48巻
No.447



キク *Chrysanthemum morifolium* Ramat.　（キク科 *Compositae*）

生薬　キクカ（菊花）

生　薬　キクカ（菊花）　秋、花の満開時に花序を摘み取り、蒸してから陽乾する。

成　分　セスキテルペン：chrysantherol, chrysanthetriol, chrysanthemol, indicumenone, handelin, kikkanol A, B, C, D, E, F、フラボノイド：luteolin, apigenin, apigenin-7-glucoside, eupatilin、精油：camphor, bornyl acetate, sabinene等。

効　能　解熱、解毒、鎮痛、消炎作用があり、感冒、発熱、悪寒、頭痛に、また目の充血・かすみ目などの種々の眼性疾患に用いられる。釣藤散、杞菊地黄丸等の漢方処方に配合される。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター
村上守一氏　写真撮影

○○表紙について○○



日本薬局方外生薬規格に収載されていましたが、第14改正日本薬局方第一追補(2003)から「本品はシマカンギク *C.indicum* L. 又はキク *C.morifolium* Ramat.(*Compositae*)の頭花である」と収載されました。キクは別名イエギクとも呼ばれ、主に園芸用として栽培されています。

薬用として中国各地で広く栽培されており、産地によりその生薬名が異なります。安徽省亳県産を「亳菊」、河南省産の「懐菊」、河北省産を「祁菊」、四川省産の「川菊」などや、安徽省滁県産の「滁菊」、安徽省歙県産の「貢菊」、浙江省産の「杭菊」などがあります。高さ50－150cmの多年生草本で、茎は直立し、灰白色の柔毛を密生し、上部でよく分枝します。葉は互生し、単葉で有柄、葉身は卵形から被針形、深裂するか荒く不揃いな鋸歯があり、両面とも白色の柔毛に密におおわれています。頭花は頂生あるいは腋生で、単生あるいは数個がまとまってつきます。頭花の大きさは変化に富み、直径2.5－５cm、頭花の周辺には雌性の舌状花、中央には両性の筒状花があります。栽培品種が多く、頭花の変異は大きく、様々です。

もう一種のシマカンギクは中国各地、台湾、インド、朝鮮半島、本州近畿以西、四国、九州に自生する多年草、草丈は30－60cmで、茎は細く根茎は横走します。葉は、長さ３－５cmで裏は絨毛が生えていて、互生し、卵円形か長円状卵形で、羽状に深い切込みがあります。花は黄色く、外側にある舌状花と中央にある筒状花の２種類からなり、秋から初冬に咲き2.5cmほどの大きさになります。花を油に漬け薬用とすることから、別名でアブラギク（油菊）とも呼ばれています。

「菊」が日本に渡来した時期ははっきりとしませんが『大和本草』（1709）に「上代には未だ中夏よりわたらず。故に『万葉集』（７－８世紀）の歌には菊を詠せず。その後わたりしゆへ『古今集』（905）にはすでに詠す」とあり、平安時代の『古今和歌集』に多くの「菊」が詠まれていることから、渡来は平安時代の初期、つまり９世紀以降と考えられています。以後多くの和歌集で詠まれ、『源氏物語』（平安中期）や『枕草子』（平安中期）にも採り上げられ、また鎌倉時代には　後鳥羽上皇（1180－1239）が皇室の紋として用いていました。

『新撰字鏡』（898－901）に「鞠菊　二上字左支奈」、「菊花　辛与毛支」と和名が収載されていますが由来はわかりません。『本草和名』（918）には「菊花　和名加波良於波岐」と、和訓「おはぎ」はヨメナ（*Aster yomena*）の古名で、誤用されていたようです。『倭名類聚抄』（931－937）には「菊　和名加波良与毛木、一云加波良於波岐」とあり、また『医心方』（982－984）では初めて「菊　和名岐久」と「キク」の名が登場しますが、漢名を音よみして「キク」と読んでいたと考えられ、目新しい呼び名ではありません。

薬としての利用は『神農本草経』（２C－３C）に「菊花、一名節華、味は苦、平。川沢に生ず。風頭、頭眩、腫痛、目脫せんと欲し、涙出で、皮膚死肌、悪風濕痺を治す。久しく服せば、血氣を利し、身を輕くし、老に耐え、年を延ぶ」とあり、また『名医別録』（502－536）には「菊花、甘、無毒。腰痛、去来して陶陶たるものを療す。胸中煩熱を除き、腸胃を安んじ、五脈を利し、四肢を調える」と古くから使われていました。国内では『延喜式』（927）「典薬寮諸国進年料雑薬」に「黄菊花」の名で、近江国の一斤二両をはじめとして、甲斐国、阿波国、下野国、若狭国、讃岐国の六ヶ国から計三斤六両が献納されています。　（村上守一　記）